1　国語

学校番号	４１７

令和３年度　国語科

教科	国語科	科目	古典Ｂ	単位数	２	年次	２
使用教科書	「新　高等学校　古典Ｂ」　（明治書院）						
副教材等	「常用漢字ダブルクリア　別冊　徹底トレーニング　練習Ａタイプ」（尚文出版）						

1 担当者からのメッセージ

・１年間学んだ古典の知識をさらに伸ばせるようにします。身につけた単語力や文法力を発揮して発展的な作品を読み進めていきます。
・古典は現代語訳をして終わりではありません。何百年も前の文章の内容の面白さが分かるということまで理解度を求めます。
・予習として必ず本文を読み、ノートに本文を写しておきましょう。
・授業の後には本文を読み、現代語訳と内容を振り返って復習してください。

2 学習の到達目標

・１年の古典の学習に続き、様々な教材を取り上げ、幅広く学習することで、古典の内容を的確に捉え、理解する力を高める。
・古典に用いられている語句の意味や用法、表現上の特色や構造への理解、文章に表れた思想や感情の読み取りなどを通して、国語についての認識を高め、言語感覚を養う。
・優れた表現に親しみ、特に日本と中国の文化の関係を考える。
・古典にしかない、独特な時代時代の思想や感情に触れ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにするとともに、古典に親しむ態度を身に付ける。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:読む能力	c:知識・理解
観点の趣旨	古典を読む力を進んで育てるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まりなどの理解を深め、知識を身に付けている。
主たる評価方法	行動の観察 記述の点検 （ノート、ワークシート等）	行動の観察 （発表等のパフォーマンスの評価） 記述の点検 （ノート、ワークシート等）	記述の確認及び分析 （ノート、ワークシート） 定期考査

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c		
1学期	説話	教材： ・安養の尼の小袖 （古今著聞集） ・児の飴食ひたること （沙石集）	○	○	◎	a:比較的短く、話が具体的で展開の分かりやすい説話を読み、古文に親しむ。 b:場面状況と登場人物の行動や心情を把握し、話の展開を理解する。 c:指示語の内容を確認する。	a:行動の観察及び記述の点検 b:記述の確認及び定期考査 c:定期考査
	随筆	教材: ・これも仁和寺の法師 ・雪のおもしろう降りたりし朝 （徒然草）	○	○	◎	a:徒然草の概要を理解する。 b:文章の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 b:登場人物の行動や心情を読み味わい、生き生きとした人物像をとらえる。 c:自動詞と他動詞について理解する。	a:行動の観察及び記述の点検 b:記述の確認及び定期考査 c:小テスト及び定期考査
2学期	物語・随筆	教材： ・梓弓 （伊勢物語） ・九月ばかり （枕草子）	○	○	◎	a:伊勢物語・枕草子や作者の概要を理解する。 a:文章の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 a:登場人物の行動や心情を読み取り、物語の面白さを味わう。 b:作中の和歌を修辞技巧に留意して、話の展開に沿って解釈する。 c:形容詞・形容動詞について理解する。	a:行動の観察及び記述の点検 b:記述の確認及び定期考査 c:小テスト及び定期考査

2学期	漢文／史話・史伝	教材： ・鴻門之会 （史記）	○	○	◎	a:本格的な中国の歴史書の、有名な場面を扱った長めの文章を読み、読解力を養う。 a:本文を訓点に従って音読し、書き下し文に改める。 b:重要な句形について理解する。 b:登場人物の行動や心情を読み取り、歴史上の有名な場面を読み味わう。 c:作者作品について理解し、中国の歴史への関心を高める。	a:行動の観察及び記述の点検 b:記述の確認及び定期考査 c:小テスト及び定期考査
3学期	軍記物語	教材： ・先帝身投げ （平家物語）	○	○	◎	a:物語展開に即して、登場人物の心情や行動を的確にとらえる。 b:登場人物の行動や心情を読み取り、歴史の流れと共に場面を読み味わう。 b:言葉のどのような点が問題になっているか整理する。 c:敬語や補助動詞の敬語について理解する。 c:助動詞の意味を確認する。	a:行動の観察及び記述の点検 b:記述の確認及び定期考査 c:小テスト及び定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b: 読む能力　　c: 知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。